

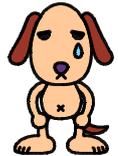
たかね台動物病院通信

Vol. 2 2013.9.1

まだまだ猛暑が続く2013年ですが、それでも9月になり、少しずつ秋の気配が漂い始めています。食べ物もおいしい季節になってきましたが、今回は、「食欲の秋」にちなんで、誤飲・誤食による中毒についてまとめてみました。

中毒について

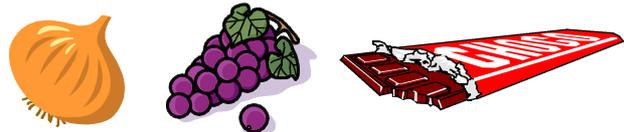
中毒とは、体内に有害な物質を取り込むことにより、様々な全身性障害を引き起こした病態をいいます。誤飲・誤食が代表的ですが、それ以外にも、吸入や皮膚からの吸収などによる中毒もあります。家庭内では、食べ物による中毒、薬品による中毒などが代表的です。



中毒を起こす食品

人間は食べても大丈夫でも、動物にとって有害である食品は数多くあります。その代表が、タマネギに代表されるネギ類による中毒です。タマネギ自体を食べなくても、一緒に煮込んだ煮汁などでも中毒が起こりますので注意が必要です。

そのほかにも、ニラ、チョコレート、ブドウ、ナッツ類など、動物に中毒を引き起こす可能性がある食品はたくさんあります。



食物以外での中毒

室内の観葉植物や、庭に植えられている植物なども、食べると中毒を引き起こすものがあります。アサガオ、アジサイ、チューリップ、ポインセチアなど、身近な植物でも中毒の危険性があります。

また、除草剤、殺鼠剤、殺虫剤、ナメクジ駆除剤なども中毒を引き起こすことがあります。散歩中などにこれらを摂取したりすることのないように、十分気をつけましょう。

そのほかにも、不凍液や一部の保冷剤（「食べても無害です」という表記のあるものを除く）、タバコの誤食なども中毒の原因になったりします。

このように、身の回りには、中毒の原因となるものが多く存在します。



薬物による中毒

家族の方が飲んでる薬や市販の薬などを、イタズラして飲んでしまうケースも多く見受けられます。少量でも命に関わるケースがありますので、薬などは、動物の届かないところに置くように心がけましょう。

市販の風邪薬も、動物が摂取すると、命に関わる危険性があるものがあります。



中毒以外にも・・・

誤食は中毒以外にも、物理的に腸が詰まってしまう腸閉塞などを引き起こすことがあります。ヒモやロープ、人形などはもちろん、桃などのタネやトウモロコシの芯など、思いもよらないもので腸閉塞を引き起こすこともありますので、十分に注意しましょう。

もしも、いけないものを食べてしまったら・・・

ここに挙げたもの以外にも、中毒を引き起こすものはたくさんあります。もし、食べてしまった場合は、早期に対応することで、命の危険を回避することが可能になるケースも多いですので、速やかに動物病院で診察を受けましょう。そうならないように、日頃から食べてはいけないものは動物の届くところに置かないことが大切です。

